
J K(×2)が異世界へ行きました。

H L

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

JK(×2)が異世界へ行きました。

【NZコード】

N8439Y

【作者名】

H-L

【あらすじ】

女子高生が突然の異世界トリップ。

普通なら取り乱して泣くところ……ですが、それが一人なら？

仲仔なJKは一人揃えれば無敵です！

「異世界？余裕～（笑）」

あげぽよ×クールな今時JK達が好き勝手して、それに振り回される王子様やら宰相様やらのお話し。

重要なのはつけまとかクレンジングとか日焼け止めとかがアルかな
イか。

(^ ~ ^) プロフ

【しゃりたす】

岬 朱里 (みさき しゅり)
JK?

* * * 好き* * *

買い物
マンガ
携帯ラブ!
ダリン(〃) 照り//
リツたん

* * * 特技* * *

メール早打ち

妄想

寝ること

【つちぢやむ】

赤坂 理津 (あかさか りつ)
JK?

* * * 好き* * *

メイク

黒猫

美白
乙女

* * * 特技 * * *

歌
料理

18禁（／＼）照り／／／

＼しゅりたす×りつちやむ／＼b＼oより抜粋。

最強仲仔 よろびく（^ ^）／

編集／しゅりたすwww

＼しゅりたす×りつちやむ／＼b＼oより抜粋。

(^_^) プロワ (後書き)

初投稿です。よろしくお願ひいたします。

始まり？（プロローグ的な？）

目開けたら、周りには怪しげなオッサンたち。
みんな杖持つてて
変な格好。

と、イケメンな男が1人。
イケメンなのに変な格好。

軍服？軍服コス！？なんか黒くて悪役っぽい！

見回すと、外国の神殿みたいな建物だった。

えー？

オッサンたちが何かやねだわしてる。ビリしたビリした?

「お前たちは一体…」

お前こそ一体…とか言つたら怒られそうなので、黙つて見つめる
ことじめた。

先程のイケメンのセリフを反芻する。

”お前たちは一体…“
”お前たちは一体…“
”お前たちは一体…“

「やばー…超っこ壱」

「は？」

「や、なんでも」

黒髪なびかせて、この男色氣ぱねえ……。

「うう……！」

「いやーんリッたん！ヤバいんだがビー・キタコレー！」

右隣のリッたんの腕をバシバシ叩いたら、超冷たい目で見られた！

「キタコレ、うつむくな。キモい」

「ひどい。せつかくの胸きゅんをー。」

私が一人きゅんきゅんしてゐる間、隣のリッたんはいつも、うさんぽ涼しい顔で周りを観察していた。

「何」

リッたんの問いかけにイケメンは無表情に答えた。

「ヴォール国王宮内にある神殿だ」

始まり？（来ちゃった。）

「ヴェール国だつてよ、リツたん」

首を傾げるリツたん。

「ヨーロッパ的な？」

「さあ……アラビアン的だつたらどうじょ？ あそこいらへん意味わか
んないんだけど」

「え、あたしヨーロッパらへんもよくわからんけど

ダメダメな二人が揃つても何もわからんかい、と。

「朱里ググれ」

「おけー」

力チカチカチカチカチカチ…

あはん。 圈・外

「リツさん無理ッしたあー」

「ちッ使えねえ」

「携帯が、だよねもちろん

リツたんは時たまドS…

てか・!モード繫がらん!やつば外国か!電波悪いだけー
!?

リツたんが怖いからイケメンに話し掛けてみた。

「ねえねえ」

「なんだ

またまたぎわづくオッサンだわ。

始まり？（来ちゃった？）

「日本で知ってる？」

「いほん？」

「アメリカってわかる？」

「アメリカ？」

はい、発音が大変可愛らしいです。

「リックたん……思いたくないけど」「ソコでさあ

頭の中で一つの単語が弾き出されました。

「言つてみ」

「えつとおー最初に”い”がついて、最後に”ふ”がつくのな

ーんだ?」

「 もあ?」

リツたん即答。

「一瞬でいいから考えよつよ

「めんど...」

リツたんクール。

「正解は異世界トリック!ー!ー!ー!

「 ないわー...」

「私もそつ思ひ」

でもさあ

チラリとイケメンと神殿を見て、もひ一度リッたんを見た。

「ほへね？」

「ほこ」

だよね。

リッたんも色々諦めて認めたみたい。

ところわけで、ひから異世界に来ちゃったみたいですね。

始まり？（とつあべす。）

その後。

「てかマジで？リアルに異世界？なんか信じられない んですけど」

夢オチじゃね？

だつて異世界とかトリップとか王国とか、小説の中の 話やーん。

「けど一人揃つて学校帰りに海外とかないじやん。なんか日本語
通じてるし」

冷静なリツ たんさすが！ でもそれなら…

「マジ〜？あーあーどうせなら旅行バッグで来たかった しい。こ
んなん（学校鞄）とかマジ萎えー」

マイク落としは？ワックスは？アイロンは？充電した いんだけど
！コンセントなんてもちろんないよね..

「お、ラッキー。あたしセブンで買つたナフキン入れ っぱ。終わ
つたけど。朱里、カラコンある？」

「無いっすー。マイクポーチとリップ入れてただけで も壊めてー

「おい」

学校鞄を各自漁る私たちにじょっとイラついた声をか けてきたの
はさつきのイケメン。

始まり？（とつあべす。？）

「はい？」

「お前たち、さつきから何を一人だけで騒いでいる？……おい術者共！」

イケメンは私たちに尋ねたかと思つたら、後ろを振り返つてロープ被つた怪しげなオッサンたちに厳しい声をかけた。

「お前らの仕業か？どこから喚んだ？」

オッサンたちは「ひつ…！…！」とか言つてビクついて青ざめている。

「こいつら一人とも、明らかに我が大陸の者ではないだろう。しかも突然現れたのを俺もしつかり見ていたが？」

後ろ姿で見えないけど、言葉一つ一つが刺々しい。イケメンがお怒りだ。

しかしまあ低い美声がまたい感じに耳にくる。

オッサンたちの中でも一番年とつてそうな、長い白いヒゲのオッサンがブルブルしながら一步前に進み出た。

名前わからんないから命名「勇氣あるオッサン」。

「お、恐れながら……」

「何の儀式をしていた?」

怒りを含んだイケメンの声に、勇氣あるオッサンは「ひつち」とチラリと見て、「お耳を……」と、イケメンに向やう。「マジで内緒話をした。

するとイケメンは「ク」と反応し、真面目な顔して勇気あるオッサンと共にひつちを見てきた。

「余計な」とを…」

「申し訳ありません。しかし私共もまさか」のよつな…」

「では」の一人が?」

「いえ、どちらかかと」

意味深な会話が始まった。

「イケメンが見つめてくるよリッたん。何コレ脈あり?」

「見つめてねえし。明らかにじりじり観察されてんだろ」

「でも心がときめく…」

「…ばか?」

リツ
たん
冷
た

い
！
！
！

始まり？（とつあべす。？）

まあぶつちやけて言えば。

うちら一人は花嫁候補として喚ばれたらしよい。

うんありがちありがち。

誰のつて、もちろんあのイケメンの。

そしてイケメンは王子様だった。

うんうん、王道王道。

けじさいの姿からあるとびつつかつて言ひつと魔王だ。

魔お...じゃないイケメン王子様の面前は...

「俺はリティアス・レイ＝ヴュール」

「んん? り、りで...」

「リティアスね」

ちよ、リツたん何で言へるのー。

「...りです」

「リティアス、だ」

イケメ…じゃなくてリディアスが訂正を入れてくれる。発音すると
ムズいんだよ！

「りでいあす」

「惜しい」

とリツたん。

「何か違う」

トリティアス。

「りでいあす？」

言えた？

首を傾げたら田の前にいたリディアスはニヤリと笑つて、

ニヤリと笑つて……

ちゅ。

ペロッ。

「仕方ないな、”リド”でいい、……ショリ?」

耳にキスして

あげく舐めて

囁きやがった。

は？私？

ええ、もちろん忘れましたけど。

だつて胸がきゅんきゅんしたああーーーーー

なにこのチャラ男…！…！

変な女…たちが現れた。

*

ヴェール王国は大陸の中でも1・2を争う大国。この数百年安定して繁栄を誇り、城下の都も活気に満ちている。

そんなヴェール王国には現国王の元に2人の王子たちがいる。

第1王子 サイル。

御年28歳。

第2王子 リディアス。

御年26歳。

何をとち狂つたか、家臣達は国家が誇る最高位魔術師たちを総動員

変な女たちが現れた。

*

最近のヴェール王国家臣達の関心は、2年前隣国の王女と結婚した
サイル王子から、未だにのらりくらりと婚約者どころか恋人も決め
ない第2王子リディアスにシフトチェンジしている。

そんな今日この頃。

して異世界から女を召喚したらしい。

しかも何故か2人。

…正直まだ遊んでいたいんだが。

…嫁候補？

*

リディアスは異世界から来た2人を観察した。

向かつて右の女はフワフワした髪を腰まで伸ばし、茶色とも栗色と

も言えない不思議な色をしている。

「ねえねえ」などと軽々しく声を掛けられた時は驚いた。

隣の女はリティアスと同じ黒髪を…なんと肩より上で切り揃えていた。

普通女性は髪を胸元辺りまでは伸ばす。

2人は知り合いらしく、親しい口調で会話している。

似たような服装をしており、下着ではないのかというようなスカート……

(これはスカートと言えるのか?)

……もどきからは、白い足が惜しげもなく晒されている。

そして、2人とも目がでかい。睫毛に至つては恐ろしく長い。人形のようだ。

唇は見たことも無いほど光つており、ふるふるしている。

会話を聞く限り、なんだか頭の足りなさそうなフワフワ髪と、無表情で冷たそうな黒髪。

「の2人のどちらかと結婚…。」

無理だな。

そう思った。

名前を教えた後、フワフワ髪が困った顔をして言った。

「うでいあす？」

あらわす。

前言撤回。

フワフワ髪にしよう。

闇話（後書き）

第1王子サイル「リードは昔猫飼つてたよね」

家臣「ええ、可愛がつておられました」

第1王子サイル「確か茶色の……」

家臣「いえ栗色では」

第1王子サイル「やうだつたかな？ちよつとお馬鹿な子猫だつたよね（笑）」

から？（むしろ）から？

あの後、チャラ男…もといリディアスはフェロモンを大量放出させて口説いてきた。

もうすでにフォーリンラブな私はバツチコーケ（^○^）＼で口説かれました！

リッたんの超冷たい視線はとりま無視！

さつきまでは魔王だつたけど、今は夜の帝王なりディアス。

リディアスの後ろにいるオッサンたちからは彼の長いマントで隠れてて見えないけど

抱き締めながらさり気に太ももをわざわしますこの人！

これでブツサイクなオヤジだつたら痴漢だけど…

「 ゃん…えつ ひこー 」

「ああ、すまない。柔らかくてつい手が」

「 バ～コ～だな～許しかよ ～みたこいなー 」

美形なら許せる。

だつて私乙女！たぶんしょく んまんに遭遇したドキ わやん並み
に田がハートと思ひー

「 ペリード 許してもいいのか確かめよつかな？」

「 もやッ 」

「グシッ……！」

「…………痛いですリツさん」

「目工 覚めた?」

「バツチリ。」

口の角で汗をぬぐう

「こんなトコでイチャつくなバカッフル」

「え」

「ハヤニナリ。ハヤナリ。」

「…………!!」みんなもいっしょ！！

リッたんにキモがられるなんて嫌！

ため息をついたリッたんは、チラッとリディアスを見て言った。

「超遊んでそうじゃん、こいつ」

「だよねー思った」

ウンウンと頷いたら、気のせいかりディアスのエロスマイル（命名）
がビキッとひくついた。

オッサンたちも何やらハラハラしてゐみたい。

「なんかホストっぽいし。百戦錬磨つてゆーかそあ」

リッたんはリディアスを上から下まで観察してゐる。

見つめられてるからってリッたんに惚れんなよー。リッたんクールビ
ユーティーでマジ美人だけビー！

てかホストって。

「わかるーー。N.O.とか飛び越して、殿堂入りしてそうーんでもガ
ンガン密に貢がせてそうー」

「あーそんな感じそんな感じ」

「………… むしかるから? (むしかるから? ?)

「………… よく分からん言葉が多いが、なんとなくお前たちの俺に対する印象は分かつた…」

美形のため息!なんかアンニユイで萌える!.

「(つ)ひっかきのひっかを花嫁にするんだつけ? そのために喚んだんだ
よね」

リツたんが私の腕をグイツと引つ張つて、後ろから抱きしめてきた。

いやんショーリー!

なーんて考えてる内にもリツたんとロディアスの会話は進んでいく。

「シユリでいいのね?」

「シユリ”が”いい

「花嫁とか言つてゐけど、愛人とか…”側室”だつけ?そーゆーや

つならボコッて潰すよ

リリリリッたん！潰すつて……ガクブル。

「本当にお前は恐ろしいな。愛人や側室じゃない。正式な妻として迎える。シユリー人だ」

公開プロポーズキター（・・・）！！！

ただし何故かリッたんの腕の中だけビー

リッたん刑事の取り調べは終わらない。

「過去の女関係は？」

「……後腐れのない別れをしているから問題はない。ちょうど身辺整理が終わった所だ」

「ついでに聞くけど、シユリーがあんたの嫁になつたとして、うちの扱いはどうなんの？」

「シユリは妻として、もちろん私と共に城に住んでもいい。お前……リツと言つたか？……は、妻の友人であり貴賓として、同じく城に部屋を用意するつもりだ。もとよりこちら都合で無理に異世界から来てもらつた身、望むなら郊外に屋敷や領地を『えよ』」

「ふーん……ならまあヨシ」

何がヨシ？とか尋ねる間もなく、私はリツたんにドーンと押されて、前にいたリディアスの胸に文字通り飛び込んだ。

「んぶッ……！」

「シユリ、私が許す。そいつの嫁になつて幸せになれ」

「へ？ いきなり何？」

今度はリディアスの腕の中で首を傾げると、リツたんはこちらに来て初めての笑顔でキュピーンとサムズアップして言つた。

「シユリ、あんたがそいつの嫁になれば万事解決。衣食住に困んな

「いしシユリは念願のダーリン。
私は結婚なんてまだ無理だ
からヨカツタワー」

「えつと、リツたん？」

五分前まで「信用ならねえ」て顔でリティアス見てたよね？

「シユリ、お幸せに」

私、リツたんに売られた系？

包み込む暖かい腕に力が入った。

「幸せにある、ショウリ」

「…よろしくお願ひシマス！」

うふ。とやかいた！

デイステイ――！――！――！――！――！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8439y/>

J K(×2)が異世界へ行きました。

2011年11月27日12時48分発行